

研究課題名：

成人期川崎病既往患者への PCI 施行に関するアンケート調査

研究代表者：

東邦大学医療センター大橋病院病理診断科

高橋 啓

研究分担者：

東邦大学医療センター大橋病院小児科

二瓶浩一

国立成育医療研究センター臨床研究開発センター

小林 徹

日本大学医学部小児科

鮎沢 衛

久留米大学医学部小児科

須田憲治

金沢医科大学小児科

中村常之

京都府立医科大学

池田和幸

名古屋大学医学部小児科

加藤太一

東邦大学医療センター大橋病院病理診断科

大原関利章

東邦大学医療センター大橋病院循環器内科 (CVIT 理事長) 中村正人

東邦大学医療センター大橋病院循環器内科 (CVIT 事務局) 原 英彦

要約

CVIT の協力を得て川崎病既往成人 PCI 施行についての Web アンケートを行った。PCI 施行 64,281 例中、川崎病既往例が 21 例(0.033%)存在した。これらの PCI 時年齢は 22 歳～44 歳と若年成人で、90%が男性であった。さらに、80%以上の症例で石灰化を伴う巨大冠動脈瘤が確認された。瘤形成川崎病既往例の中には瘤増大例が存在することから、注意深い観察が必要であることが明らかになった。今後も継続して調査を行う必要がある。

## 1. 目的

成人のインターベンション治療 (PCI) 症例の解析から成人期に達した川崎病既往患者に対する PCI 施行実態を把握することを本研究の目的とした。

## 2. 方法

CVIT (日本心血管インターベンション治療学会) 会員に対して、川崎病既往例および既往未確認の冠動脈瘤形成例について、Web アンケート調査を行った。

対象施設：600 施設 (PCI 施行数 250,000 件/年)

調査対象期間：2016 年 1 月 1 日～2016 年 12 月 31 日

調査形式： Web アンケート

調査項目

- 1) 施設の年間 PCI 件数
- 2) PCI 施行された川崎病既往例 あり・なし
- 3) PCI 施行された冠動脈瘤形成を伴う症例 あり・なし
- 2.または3.で「あり」の場合、該当症例について下記の項目を記載

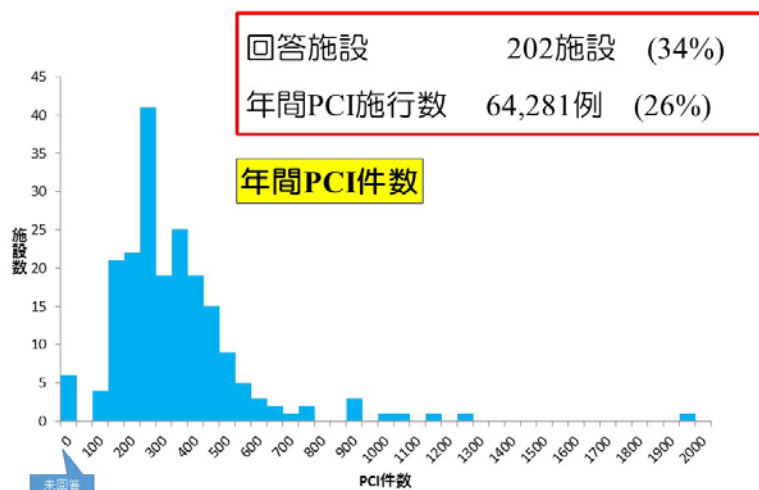
- ① 年齢
- ② 性別
- ③ 身長・体重
- ④ 川崎病罹患の有無、罹患時年齢
- ⑤ 小児期の冠動脈瘤の有無とサイズ
- ⑥ PCI 実施前における川崎病定期通院の有無
- ⑦ 定期投薬の有無と投薬されている薬剤
- ⑧ 冠疾患危険因子(肥満・喫煙・高血圧・心疾患の家族歴・脂質異常症・糖尿病・

慢性

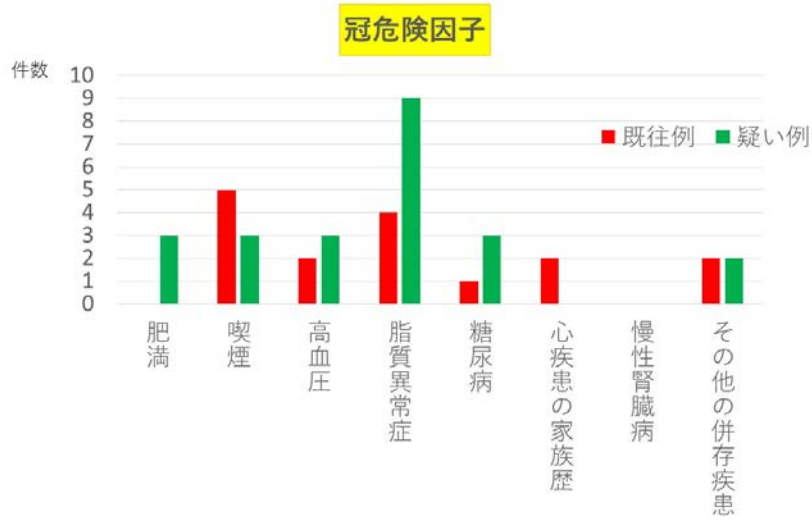
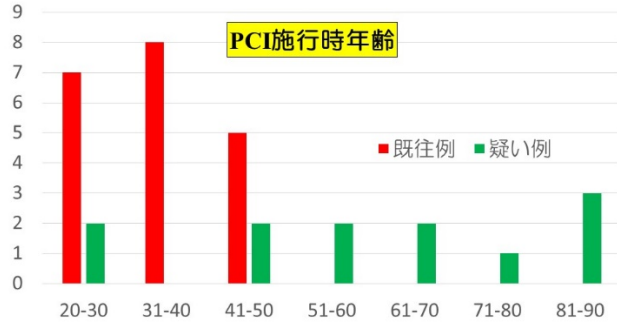
腎臓病・その他の併存疾患)

- ⑨ PCI 実施前の内服薬の有無と薬剤名
- ⑩ PCI 施行した責任セグメント
- ⑪ 動脈瘤の有無とサイズ、セグメント
- ⑫ 冠動脈瘤部位における石灰化の有無

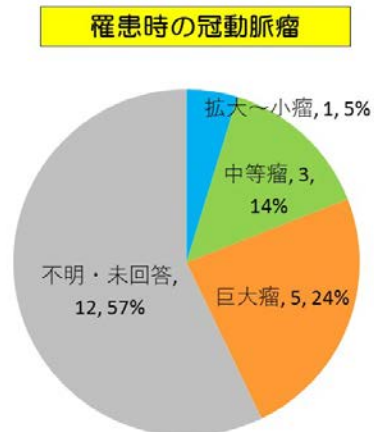
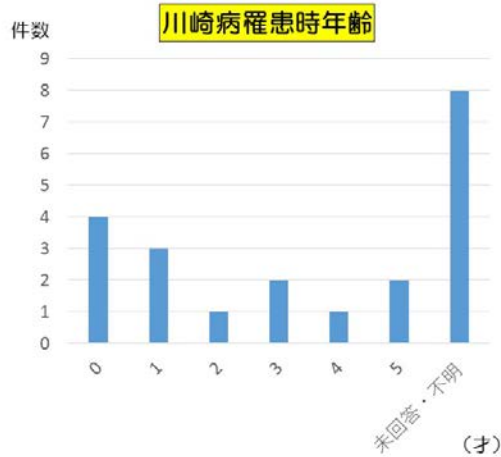
### 3. 結果



	症例数	男女
川崎病既往例	21例 (0.033%)	20/1
川崎病疑い例	12例 (0.018%)	7/5

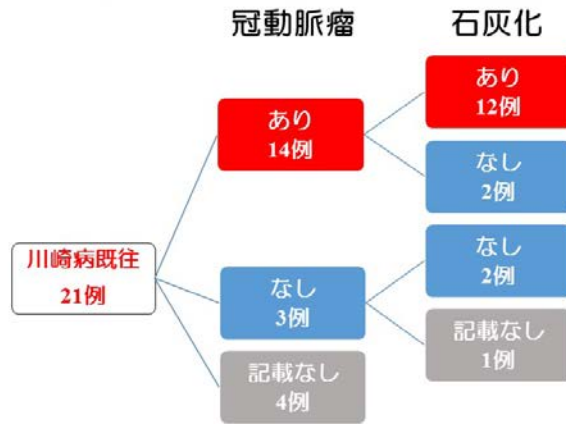


### 川崎病既往21例

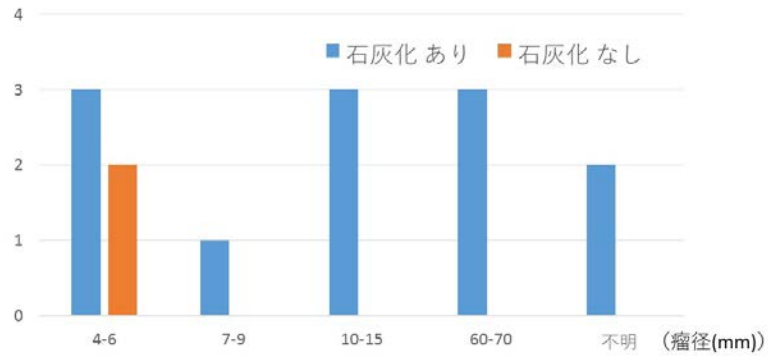


## 川崎病既往21例

### PCI施行時の冠動脈病変



### 川崎病既往例 PCI施行時に瘤を認めた14例の 瘤径と石灰化の有無



既往例 罹患時に冠動脈瘤について記載があった9例

年齢・性別	罹患年齢	小児期		罹患後年数	危険因子	PCI施行前の投薬内容		動脈瘤		
		小児期の冠動脈瘤	定期投薬の有無・内容			抗血小板療法	抗凝固療法	Seg	石灰化	最大径
33 男性	1	拡大～小瘤	なし	32	喫煙 脂質異常症			#1	+	15
28 男性	2	中等瘤	アスピリン	26					+	7
35 男性	1	中等瘤	アスピリン	34		バイアスピリン		#6	+	6
44 男性	3	中等瘤	なし	41	脂質異常症 糖尿病			#2	+	5
22 男性	0	巨大瘤	アスピリン	22		バイアスピリン、 プラビックス	ワーファリン	#6	+	63
24 男性	0	巨大瘤	アスピリン	24		バイアスピリン		#11	+	70
24 男性	0	巨大瘤	アスピリン	24					-	6
25 男性	5	巨大瘤	アスピリン	20		エフィエント			+	10
30 男性	4	巨大瘤	アスピリン	26		エフィエント			+	7

#### 4. 考察

CVIT 会員の協力を得て川崎病既往成人 PCI 施行についての Web アンケートを行った。約 34%の会員施設から回答を得、64,281 PCI 施行例中、川崎病既往例は 21 例(0.033%)、川崎病既往疑い例は 12 例(0.018%)存在した。川崎病既往 21 例の PCI 時年齢は 22 歳～44 歳と若年層に局限していたが、その大多数は男性であった。さらに、80%以上の症例に石灰化を伴う巨大冠動脈瘤が確認された。一方、石灰化を伴わない症例は瘤径 6 mm 以下であった。これらは従来の報告とほぼ一致する結果であった。また、瘤形成川崎病既往例の中には瘤が増大する症例があり、観察には注意を要することが明らかになった。本研究は調査項目が限定していることに加え、単年の検討であり、今後も継続して調査を行う必要がある。

#### 5. 研究発表

1. 高橋啓, 二瓶浩一, 鮎沢衛, 小林徹, 須田憲治, 中村常之, 池田和幸, 加藤太一, 大原関利章, 原英彦, 中村正人: 成人期に達した川崎病既往患者に対する PCI に関するアンケート調査、第 26 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT 2017 学術集会, 京都, 2017.7
2. 高橋啓, 二瓶浩一, 鮎沢衛, 小林徹, 須田憲治, 中村常之, 池田和幸, 加藤太一, 大原関利章, 原英彦, 中村正人: 成人期に達した川崎病既往患者に対する PCI に関するアンケート調査結果報告. 第 37 回日本川崎病学会・学術集会, 東京, 2017.